

共通理解シート 【記入例】

★ 全国学力・学習状況調査の結果から、重点的に指導改善すべきと考えられる設問

分析、焦点化

- 3 中心角 60° の扇形の弧の長さについて正しいものを選ぶ(知識・理解)正答 67.4%
- 4 「…は…の関数である」という形で表現する(知識・理解)正答 45.0%、無答 11.5%
- 9(3) $\angle ARG$ や $\angle ASG$ の大きさについていつでもいえることを書く(見方や考え方)正答 25.8%、無答 34.9%

「調査結果概況」、「問題別調査結果」だけでなく、S-P表や学力層(四分位)分析グラフ等の分析資料を活用して、設問を絞りましょう。



★ 問題発見・解決の過程に示された各場面をつなぐ矢印において、重点的に指導改善すべき点とその手立て

検討

・重点的に指導改善すべきと考えられる設問を解くためには、どのような資質・能力の育成を目指すか【資料1参照】

- ・ 図形の性質について、いつでも成り立つ性質を見いだしたり、図形の特徴を捉えたりする。
- ・ 見いだした事柄や、問題解決の方法を説明する際、数学的に表現する。
- ・ 二つの数量について変化や対応の様子に着目して、その関係を的確に捉える。

絞った設問から、どのような資質・能力の育成を目指すかを検討し、重点的に指導改善すべき点を明らかにして、その手立てを講じます。



・「読み解く力」の視点を踏まえた学習活動と1人1台端末の効果的な活用を通して、その資質・能力を付けるための手立て【資料2参照】

- ・ 「なぜ」「どのように」「どうすれば」等を用いて、生徒の数学的な思考を促す発問をする。
- ・ 紙や1人1台端末を用意し、実際の図を観察することで、図形の性質や成り立つと予想される事柄を見いだすなど、授業に観察や操作、実験をする場面を取り入れる。
- ・ 条件を変えることで、新たな問題の発見を生徒に促し、見いだした事柄を説明する等の活動を設ける。
- ・ 日常的な事象の中にある二つの数量の変化や対応の様子を調べ、それらの関係を見いだす活動を通して、関数の意味を理解できる指導を行う。
- ・ 二つの数量の関係を一次関数とみなすことで未知の状況を予測する際、習得した数学的な表現を用いて、考え方を説明するような場面を設定する。
- ・ 表や式、グラフが表していることの意味を正しく読み取り、説明する場面を設定する。

★ 学校や学年で、統一して授業実践で取り組むこと

- ・ 生徒が目的意識をもつために、思考を整理したり、数学的な表現に修正したりすることができるような発問をする。
- ・ 授業に観察や操作、実験をする場面を取り入れる。
- ・ 表や式、グラフが表していることの意味を正しく読み取り、説明する場面を設定する。

統一して取り組む内容は、日常的に実践できるようにしましょう。

